

新・水土を守る人々

“浜松市の農業を支える”
浜松土地改良区を紹介します！

1. 紹介して下さる方

浜松土地改良区 維持課

副主幹 辻村 裕哉

昭和 56 年 静岡県浜松市生まれ

平成 12 年 静岡県立浜松工業高等学校 土木科 卒業

浜松土地改良区 維持課

技術職員 竹内 佑太

平成 3 年 愛知県小牧市生まれ

平成 22 年 静岡県立浜松工業高等学校 土木科 卒業



(左) 辻村副主幹 (右) 竹内職員

【一言メッセージ】

(辻村副主幹) 浜松市の農業を支えているという自覚を持ち、日々業務に取り組んでいます！

(竹内職員) 三方原台地で採れた野菜で作る料理は絶品です！ぜひ一度お越し下さい！

2. 水土の歴史

浜松土地改良区は、静岡県西部の浜松市の浜名湖と天竜川に挟まれた範囲に受益地 7,400ha の田畑を有し、天竜川下流地区と三方原用水地区の幹線用水路 (213km) 及び揚水機場 (4 か所) の維持・管理を行っています。今回は、三方原用水地区をメインに紹介させていただきます。

三方原用水地区の受益の大半を占める三方原台地は、武田信玄と徳川家康の「三方ヶ原の戦い」の古戦場で知られていますが、かつては強い酸性の土壌に加え、河川が一つも無く、地下水も低く、農作物が育たない不毛の原野であり、この台地を潤すことは、浜松の先人達の悲願でした。その後、地域農家や関係機関の長年の努力により、昭和 35 年度から国営三方原用水土地改良事業 (前歴事業) が始まり、天竜川に建設した秋葉ダムから取水して「農業用水、水道用水、工業用水」を供給する総合的な開発が実施されました。これにより、不毛の原野とされていた三方原台地は、野菜・花卉などの一大産地へ変貌を遂げることができました。現在、完成から 50 年経過し、施設の老朽対策や大規模地震対策を行う国営三方原用水二期土地改良事業が実施されています。



秋葉取水口

3. 水土を守る苦勞・エピソード

(1) 広範囲に亘る受益地への水利施設の管理（三方原用水二期地区）

当地区はいくつかの用水系統に分かれており、系統ごとに毎日巡回していますが、末端 FP と水路の名称・場所、巡回経路及び配水調整の仕方が覚えられず、最初は苦勞しました。

また、日々の巡回では、用水系統によっては 100km 近い距離を回らなければならず、それだけでほぼ一日かかってしまいます。更に配水状況に不具合が発生した場合、その対応のために時間を費やし、通常の巡回すらできないこともあります。

北と南、西と東で土壌が違えば農作物も異なり、馬鈴薯（露地栽培）、セルリー（ハウス栽培）、花卉、樹園地のみかんなどと多種多様な 80 品目が栽培されています。このように、地域ごとに用水需要が異なるため、巡回しながら用水の利用状況を把握し、配水調整の内容などを日誌に記してデータ蓄積することにより、細やかな配水調整に努めています。



夏場はどこも用水の需要が多くなりがちで、下流域の農家から「用水が届かないぞ！」と苦情が入ってしまう時は、配水調整の難しさを感じますが、配水調整がうまくいき、しっかり用水が行き届いたときに農家の方々からいただく感謝の言葉は、喜びとともにとてもやりがいを感じます。

農家の方々の持つ『水への思い』はとても強いので、それに応えられるよう日々、配水調整に努めています。

(2) 長雨による濁水の影響

当地区のハウスでは、葉物野菜、花卉などを頭上かん水で栽培しており、用水の濁りが高すぎると作物に土粒子が付着し、品質低下を招くことになるため、三方原用水の水質に敏感な農家もおられます。

令和2年7月の長雨の影響で天竜川から取水した用水は1ヶ月間、濁りがひどく、茶色でした。ある農家に「茶色い用水でも大丈夫ですか？」と尋ねてみたところ、「使い方は自分たちで工夫するからとにかく用水を届けて欲しい。」とのことでした。

また、花卉を栽培されている農家は「花に水をかけると色が悪くなるからダメだが、手間がかかるけれどもホースで農地にかん水するには十分だ！」といったお言葉もあり、農家の方々にとって用水が届くことが重要であり、用水が届かないことには農業が始まらないことを改めて実感しました。

(3) 通水断水作業の繰り返し

平成 27 年度より国営三方原用水二期土地改良事業に着工し、10 年かけて施設を整備していく予定です。

当地区は年間を通じ用水を供給する必要があるため、施設改修の工事は、非かんがい期に毎週3日間の断水、4日間の通水を繰り返しながら、断水となる3日間で行っています。

工事の実施に伴い分水工を改修して新設する箇所があるため、今までの配水管理とは異なり、しっかり末端 FP まで用水が届くのか不安な思いをしながら配水調整を行っています。

週 3 日間の断水では、月曜日の夕方に断水して木曜日の夕方に通水しますが、野菜、花卉などの栽培が盛んなことから、金曜日の早朝からかん水できるよう、用水の到達を待っている農家の方々が多くいます。

このため、通水を再開する毎週木曜日は冬の寒空の下、用水が末端 FP に到達するのを見届けています。確認終了が深夜になることもありますが、農家の方々の営農に支障が出ないように水を届けるのが我々の使命だと考えています。

現在実施中の三方原用水二期土地改良事業で水管理システムの更新が計画されており、それが出来上がれば分水作業が中央管理所で行えるようになり、労力が削減できるものと期待しています。

4. 水土を守ることへのやりがい・思い

浜松市は車やオートバイなど工業が盛んな街だと思っておりましたが、浜松土地改良区に就職してから農業も盛んであることを知りました。浜松市の市町村別農業産出額は、全国第7位(平成 30 年)であり、三方原用水地区は全国でも有数の農業地帯です。

この地域の農業をここまで発展させることができたのは先人たちの努力や知恵により不毛な三方原台地に水を引いたおかげであり、その水を配る施設を維持管理しているのは我々浜松土地改良区の職員だと自負しています。先人たちの思いをしっかり受け継ぎ、「欲しいときに水が出る！」をモットーに、浜松の農業が益々発展して欲しいと日々励んでいます。

【取材：関東農政局 三方原用水二期農業水利事業所】



改修・新設の分水工での通水確認



操作盤によるバルブ開度調整

「新・水土を守る人々」シリーズは、農林水産省HPでも紹介しておりますので、是非ご覧下さい。



公開先 URL

<http://www.maff.go.jp/j/nousin/sekkei/museum/suido/170220.html>

←アクセスはこちら！！

※農林水産省HPへのリンクは、ご自由に設定していただいて構いません。

(詳細は農林水産省HP「リンクについて・著作権 (<https://www.maff.go.jp/j/use/link.html>)」を参照願います)